

学校関係者評価委員会

(第 12 回)

■日 時：令和 7 年 9 月 29 日（水） 17：00 ～ 18：00

■場 所：龍馬デザイン・ビューティ専門学校 ラウンジ

【参 加 評 価 委 員】

高橋 和之さま	山下 智徳さま
國澤 裕貴さま	中村 天星さま
菅井 清次さま	

【学 校 参 加 委 員】

中西校長	大久保副校長
【進行】石元教務部長	筒井課長
久川課長	桑名主任
【議事録】安岡	

～ 討議・意見交換 ～

【山下】 自己点検について「社会的活動を評価単位認定しているか」という項目はいつも1だが、ずっと1のままでいいのか。

【大久保】 ボランティア活動などに取り組んでいる学科はあるが、学校全体となるとカリキュラムの都合などもあり、なかなか取り組めていない状況である。

【筒井】 全科になると難しいのが現実。

【国澤】 「アンケート結果に基づく研修を実施しているか」という項目は常勤の教員のみが対象で、非常勤講師への研修は行っていない認識で良いのか。

【大久保】 対象は常勤となる。前提として常勤が教鞭を振るうのはもちろんだが、どちらかといえば常勤は学生指導が主な仕事になる。対して非常勤務講師は現場で活躍されているスキルを学生に教示することに特化して教鞭を振るってもらっているので現状は非常勤講師に対する研修は行っていない。しかし、先生の説明がわかりづらいなどがあれば実施の検討をしないといけない。

【国澤】 教員によって保有資格は異なると思うが、リアルな現場と教育現場でトレンドのズレが生じるケースもあるかと思う。
そのため常勤と非常勤講師が時代に応じた指導法を理解しているのかが気になる。
学生アンケート以外で授業評価をはかる方法として、
たとえば評議員が授業を見学させてもらいFBをさせてもらうこともできるのではないかと。

【中西】 学園の取り組みとして、各教員が企業に研修に出向き現場のスキルを学ぶ「教員連携企業研修」という取り組みをしており、現場の方法やトレンドを学ぶ機会を設けている。
しかしながら学生アンケートの結果に基づいてということになると、どうしても評価が低くなってしまふ。

【国澤】 学生アンケート以外に保護者の意見や企業の意見は集めていないのか。

多角的な方面から意見を集約した方がいいのではないか。

【大久保】 非常勤講師への授業見学や今回いただいた意見などは検討課題とする。

【菅井】 例年伝えていることだが、評価の上げ下げについて、今年は 5 だったから次は 4 にしよう。

というようにも思ってしまう。配布をしないでランクを下げないといけないのはなぜなのか。

「根拠はなんだろう」と疑念を抱いてしてしまう。

また、自己点検評価において「管理運営 自己点検・評価項目」の項目は評価が 3 であった。

その中の項目で「理事会・評議委員会の議事録は公開されているのか」といった項目で

「公開」と「非公開」の差はなんだろうと思ってしまう。これは全体の運営に問題があるのでは？

【中西】 評価については過去に起きた日大の問題を受け、評価基準の見直しを行っており、

いろいろと規定が厳しくなったと総務から聞いている。

【菅井】 ちゃんと 5 段階評価を見直す必要があるのでは？

【中西】 項目によっては絶対「完璧」にできないような項目がある。

【大久保】 来年、学校基準法が改定されて、評価項目が大学と同じようになる。

今まで時間数で出席率を管理していたのが単位制になる。

自己点検評価のようなものを行うが、評議員の方にコメントを入れてもらうなど、

来年度から現行の 5 段階評価が大きく変わる。現時点では文部科学省から

評価基準に関する詳細な周知はきていないが、専門学校の評価基準が大学に準ずるので

恐らく基準は厳しくなる。改正の目的は大学への編入学がしやすくなるようにすることが目的。

評価表は改善されていくのでまた来年改めて意見がほしい。

【菅井】 そもそも評価指数に 1,2 といった項目を設けていること自体が間違い。

1,2 がついた時点で学校の存続に問題ありという認識をしている。

バランスを取って 1 と 2 を入れておこうという意識は捨てておかねばならない。

【菅井】2年間という短い中で実績をつけるのは大変だと思うが、

地域にもう少し目を向けてもらえると嬉しい。

地域連携から学べるものも多くあると思うので、引き続き努力をお願いしたい。

【高橋】自己点検評価が1のものについては、実際のアンケート結果を見ないとわからないなと感じた。

【菅井】自信をもってうちは5です。という評価を望みます。

終了